

平成24年12月10日

日本原子力発電株式会社

原子力規制委員会の敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合 評価会合でのご発言について（当社コメント）

本日、原子力規制委員会の敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合の第1回評価会合が開催され、島崎委員長代理から、現時点での判断として、D-1 破碎帯が活断層として活動し、浦底断層と同時に活動した可能性があるとのとりまとめ発言があった。これに対する当社の見解は以下のとおり。

評価会合では、当社からは、D-1 破碎帯が、少なくとも約9.5万年前以前の上載地層を変位させていないこと等を大規模なトレンチ調査等で確認し、活断層の可能性はないことを説明した。

しかしながら、本日の会合では D-1 近傍に確認されたせん断面について、主に変動地形学的な見地からの可能性のみに基づき審議が進められこのようなとりまとめとなったことは、当社として到底受け入れがたい。

したがって、当社としては、現在実施している調査に加え D-1 近傍の追加調査も早急に進め、客観的なデータに基づき当社の主張を実証していく所存である。

以 上